

## 市民参画に係わる市民座談会（第20回）《要旨》

平成25年2月14日（木）午後7時から午後9時まで

コミュニティセンター 第1集会室

参加者 13人

【市民】岩垣、尾池、大野、小嶋、坂本、佐野、竹内、宮本、山本

【職員】政策企画室 佐藤、又賀、浅見 地域づくり支援課 木内

座談会における内容は以下のとおり

### 1 グループごとの話し合い

①まちづくり	②市民参画全般	③広報・広聴
・岩垣 ・小嶋 ・坂本 ・宮本 ・山本	・佐野 (佐藤、又賀)	・尾池 ・大野 ・竹内 (浅見、木内)

( ) 内は、市職員

・グループに分かれて、テーマ等について話し合った。内容は別紙のとおり。

### 2 グループごとに発表会を行い、(1グループ10分程度)発表後に、意見交換を行った。

- ・市民の定義を明確にする必要がある。
- ・今後、市民をどのように参画させていくかが課題である。
- ・年代別だけではなく、農業や商工業に従事している市民など、異業種間のつながりも必要
- ・朝霞駅東口駅前通りの整備について、市ではその準備を進めているとのことであるが、グループのメンバーは誰も知らない。市の広報に問題があるのではないか。
- ・グループで発表した内容を、どのようにして実現していくのかがキーポイントとなる。
- ・例えば、現在進行中の「川のまるごと再生プラン」や「朝霞の森」を市民参画のテストケースとして捉え、市民主体で実施し、市民参加を促進していければ良いと思う。
- ・この市民座談会のメンバーだけでは話が進まない面もあるため、市の担当部署との情報交換が必要であると考えると同時にすり合せができれば良いと思う。そして、市と市民とで合意形成が図られたら良いと思う。
- ・もう少し具体例を出していけないか。
- ・市への提案そのもののあり方も問題であると考え。グループごとの提案が、この市民座談会全体の提案とは考えづらい。例えば、広報誌の全てが提案どおりで良いのか。また、彩夏ちゃんのアイディアを市にぶつけるだけで良いのか。グループで出した提案をもっと詰めていく必要があるのではないか。それが、これからの課題ではないか。グループによって提案内容の大きさが違うため、このまま市に提案して良いものか。

### 2 次回の座談会について

- ・平成25年3月14日（木）午後7時から
- ・場所は、中央公民館音楽室。

# 市民座談会（第20回）

日時：平成25年2月14日（木）19時～

場所：コミュニティセンター 第1集会室

グループ名	① まちづくり（ ）
参加者	岩垣、小嶋、坂本、宮本、山本
内容	※要点を箇条書きでまとめてください。  発表会事前打合せ（補足）  ① 市内の活動団体の実態が掴めない。掴んでいない。 団体それぞれの事情と個人情報の問題で掴みきれない。 ② 野菜工場について、現在、10社程度が稼働している。 昭和電工、シャープ等、大手も参入している。 高齢者等の働き口、及び収入源となる。 ③ 提案をどう具体化していくのかが問題。 その為に、市民が主役のコミッショナー制度が有効。 5人としたら、3人が市民、1人が行政、1人はその道の専門家。

## 市民座談会（第20回）

日時：平成25年2月14日（木）19時～

場所：コミュニティセンター 第1集会室

グループ名	②市民参画全般（ ）
参加者	佐野、(佐藤、又賀)
内容	※要点を箇条書きでまとめてください。  前回（第19回）の話から  ・市民参画を進めていくために、ファシリテーターを養成したらどうか。 ・市民の中にファシリテーターが必要である。 ・ただ、養成しただけではダメで、実践していく場が必要である。 ・第4次総合振興計画では、ファシリテーターを市が委託したコンサルタントが行っていたが、市民ができると良いと考える。 ・総合振興計画に位置付けている「市民参画」について、どの程度進んだのかを検証する必要がある。 ・市で行政評価を実施しており、市のHPにその評価結果が掲載されているが、内容がよく分からないため、よく噛み砕いて、分かりやすく説明する役割が市にはあると思う。

## 市民座談会（第20回）

日時：平成25年2月14日（木）19時～

場所：コミュニティセンター 第1集会室

グループ名	③広報・広聴（ ）
参加者	尾池、大野、竹内、（木内、浅見）
内容	※要点を箇条書きでまとめてください。  発表会事前打合せ（補足）  ○「広報あさか」を含む広報活動について ・どのように読まれているのか、どれだけ必要とされているのか、一度リサーチする必要がある。 ・町内会に配布をすべて任せることは、町内会の負担が非常に大きいため、NPO法人や運送会社による全世帯配布を実施してもよいのではないかな。  ○彩夏ちゃんについて ・彩夏祭のイメージキャラクターである彩夏ちゃんを、市の広報者としてより活躍させることはできないか（熊本県のくまもん、深谷市のふっかちゃん）。 ・地元のキャラクターとしてシンボリックな存在となることで、地元イメージの具象化につながり、市民の朝霞への帰属意識が高まり、朝霞への愛着も強まるのではないかな。 ・彩夏祭のホームページを見ても、「彩夏ちゃんのゆる玉応援活動記」は彩夏祭の期間しか更新されていない。活動期間を通年とし、市内の様々なイベントに登場してもらい、その内容をTwitterなどで発信してはどうか。 ・第30回の節目となる彩夏祭のイベントとして、髪型にこだわりがある彩夏ちゃんにちなみ、「盛髪コンテスト」など、様々な彩夏ちゃん絡みのイベント（物語コンテストなど）を実施すると盛り上がるのではないかな。